

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者 : 60代 女性 要介護5
 利用期間 : 令和2年10月 ~ 現在
 主病名 : 大脳皮質基底核症候群
 既往歴 : 局所性てんかん

経 過 : 高次脳機能障害(注意機能低下、失行)や右上肢麻痺の影響により、ADL場面で多くの介護を要していました。ご家族は疾患の理解や状況に応じた関わり方に悩まれており、ご家族とのトラブルも多く、当初は涙を流され暗い表情で来所されていました。様々なアプローチを続けたことにより、いきいきとしたとても良い笑顔を引き出した事例を今回推薦させていただきます。

内 容

" 利用者さんは、令和2年10月より週2回で通所リハビリの利用開始となりました。利用開始当初は常に緊張された様子で、表情も硬く、お声掛けにもあまり反応がみられない状態が続いていました。

そのような状況に何とか楽しい時間を過ごして頂き、笑顔を引き出せないかと職員全体ミーティングにて検討を実施。その後も声掛けを進めた中で、利用者さんは言葉での表出が難しい方でしたが、歌を歌う事やお花が好きなの分かりました。そこでリハビリの合間に、回想法を取り入れたコミュニケーションを導入。ご本人がお若い頃に聴かれていた年代の曲を流し、利用者さんと職員と一緒に歌ってみると、思い出話などをするようになりました。

ある日、ご家族とのご関係で落ち込み、涙を流しながらご来所されたことがありました。

傍に寄り添い、声掛けや傾聴にて落ち着きを取り戻されたとき、いつものように曲を流したのですが、その中の一曲「赤いスイートピー」で表情がとても明るくなり、全ての言葉は出ないものの、一生懸命に一緒に歌おうとする様子が見られました。 歌い終わると笑顔で「思い出せた!嬉しい!」などの言葉が聞かれ、お帰り時には「また来たい」とおっしゃって頂くことができました。

この出来事を通じて、利用者さんの嗜好や人となりに合わせた余暇活動やコミュニケーションを提供できることで、少しでも楽しい時間を過ごして頂くことがQOL向上の助けとなると改めて学ぶことができました。 利用当初はご家族との関係で一日中涙を流されることもありましたが、職員の声掛けにおいて伺えた、ご趣味の歌を歌う事をきっかけに、歌と一緒に歌い、過ごすことで、ご本人の気分が変わり、

笑顔でけやきのデイケアに過ごして頂けることができるようになった事はキラキラ介護賞に値するとし、推薦させていただきます。